

富山大学 数理・データサイエンス・AI教育シンポジウム 2024
「PBL教育でのデータサイエンス活用の現状と課題」開催報告

1. 開催概要

開催日時:2024年5月15日10:00~12:00

主催:富山大学 共催:富山県立大学、富山国際大学

開催方式:オンライン(Microsoft Teams利用)

プログラム:

- 10:00-10:10 開会挨拶(富山大学都市デザイン学部 堀田裕弘教授)
- 10:10-10:35 講演1 地域と連携したPBL教育におけるデータサイエンスの活用事例と課題
(富山大学都市デザイン学部 安江健一准教授)
- 10:35-11:00 講演2 データサイエンス・AI教育とPBLの親和性 – 研究室での現状と課題
の紹介 –
(富山県立大学 奥原浩之教授)
- 11:00-11:25 講演3 地域課題解決にデータサイエンスはどう活用できるか – 富山国際大
学の取り組み –
(富山国際大学 新森昭宏教授)
- 11:25-11:50 ディスカッション
(モデレーター:富山大学都市デザイン学部 堀田裕弘教授)
- 11:50-12:00 閉会にあたって
(富山国際大学 新森昭宏教授)

*司会(富山大学都市デザイン学部 土屋泰樹特命助教)

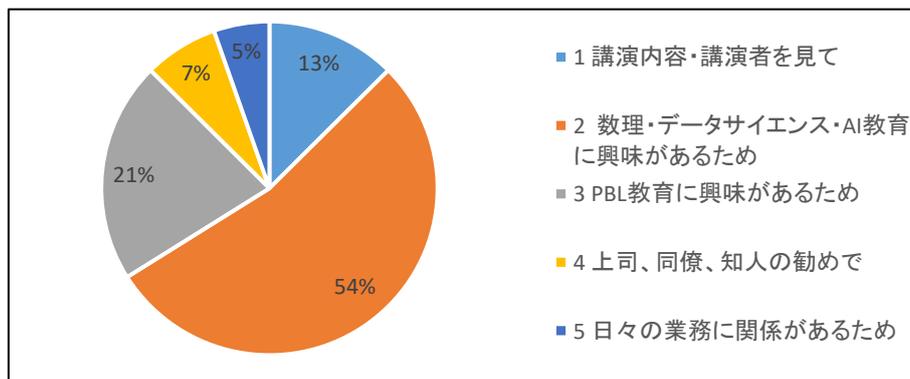
参加者数:最大134名(申込167件)

大学関係者及び民間企業等より全国各地から幅広く申込いただきました。

2 終了後アンケート結果(回答数:56)

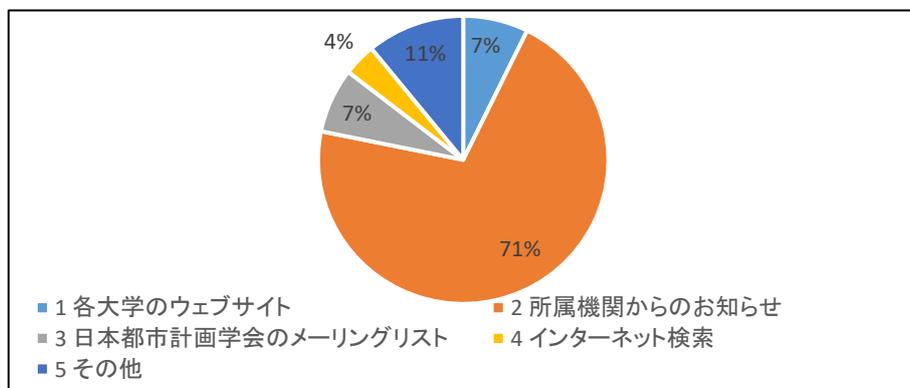
Q1 シンポジウムに参加された理由をお聞かせください。

1 講演内容・講演者を見て 2 数理・データサイエンス・AI教育に興味があるため 3 PBL教育に興味があるため 4 上司、同僚、知人の勧めで 5 日々の業務に関係があるため



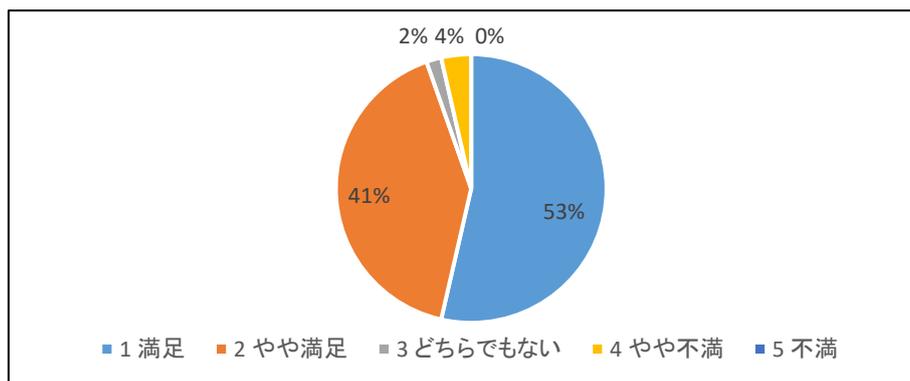
Q2 今回のシンポジウムを何でお知りになりましたか。(複数回答可)

- 1 各大学のウェブサイト 2 所属機関からのお知らせ 3 日本都市計画学会のメーリングリスト 4 インターネット検索 5 その他



Q3 シンポジウム全体に対する満足度についてご回答ください

- 1 満足 2 やや満足 3 どちらでもない 4 やや不満 5 不満



Q4 講演1「地域と連携したPBL教育におけるデータサイエンスの活用事例と課題」(富山大 安江先生)について、ご感想やご意見をお聞かせください。(自由記述)

*自由記述のため、一部の回答のみ掲載します。

- ・ DS専門教員を配属し、ということで今後のDSを用いたPBLの活用まで考えていらっしゃる点が参考になりました。
- ・ まちづくりと絡めたPBL教育の事例を聞けてとても参考になりました。学生にとっても非常に魅力的な取り組みだと感じました。
- ・ 教育用DB分科会が整備しているケースバンクに資料を提供しては如何でしょうか？
- ・ 都市デザインという分野とPBL、データサイエンスの親和性の高さを活かし、数々の事例を産み出されているのはさすがだなと思いました。

Q5 講演2「データサイエンス・AI教育とPBLの親和性－研究室での現状と課題の紹介－」(富山県立大 奥原先生)について、ご感想やご意見をお聞かせください。(自由記述)

*自由記述のため、一部の回答のみ掲載します。

- ・ PBLの定義や種類等の内容のお話があり、「今さら聞けないPBL」というような内容が含まれていましたので、大変勉強になりました。
- ・ PBL教育にデータサイエンスを活用するうえで直面する課題の一端を知ることができました。ありがとうございました。
- ・ ツールを「使う」立場なのだからブラックボックスとしての理解でもよいのではないか、というご意見に共感いたしました。
- ・ 新学部開設に伴うデータサイエンス教育の共通化に関する説明が参考になった
- ・ 全学科が、教養科目としてデータサイエンスリテラシーを学んでいらっしゃるということで、さっそくシラバス(看護)を確認させていただきました。かなり、統計の内容が含まれていましたので、これを1年生から学ぶということは、力を入れていらっしゃるんだなと感じました。

Q6 講演3「地域課題解決にデータサイエンスはどう活用できるか－富山国際大学の取り組み－」(富山国際大 新森先生)について、ご感想やご意見をお聞かせください。(自由記述)

*自由記述のため、一部の回答のみ掲載します。

- ・ 卒論において地域課題やデータサイエンスがどの程度活用されているのかがわかり興味深かった。
- ・ データサイエンスを活用した講義と地域課題解決に対する取り組み、およびそれらの問題点をご紹介していただきありがとうございました。学生教育に有効活用できている具体例を知ることができて大変意義深かったです。
- ・ 社会学を学ぶ学部こそデータサイエンスが重要であるとのことにご意見に賛同する。学生、社会人を含めデータサイエンスの民主化が必要だと理解した。
- ・ 能登地震の発生前に巨大地震に関する卒研テーマを扱っていた学生がいたことや、能登地震後の宿泊施設の稼働率に関する研究は大変印象に残りました。

Q7 ディスカッション(モデレーター:富山大 堀田先生)について、ご感想やご意見をお聞かせください。(自由記述)

*自由記述のため、一部の回答のみ掲載します。

- ・ どうやって興味を惹くのか、どうやって成功事例を積み上げるのか、という貴重な論点に関して意見が聞けた。
- ・ 新森先生がまとめられていましたように、試行錯誤を繰り返しながら成功事例を積み上げていくしかないのかな、と感じました。

Q8 データサイエンスとPBL教育についてのご意見やお考えをお聞かせください。(自由記述)

*自由記述のため、一部の回答のみ掲載します。

- ・ BIツール等の話題が出てきていて興味深かった。Excelに次ぐ重要な基礎スキルになると思われますので、活用する環境を作っていきたいと考えています。
- ・ PBLとデータサイエンスのリンクの有効性、課題を理解できた。
- ・ データを活用したPBLは今後もさらに重要になると感じた。また、すでに取り組みが行われている課題についても、学生にとっては貴重な学びの機会であるため、繰り返し取り組んでいくことも重要であるという新森先生のご意見にととも感銘を受けました。
- ・ 本シンポジウムは地域課題解決型のPBL教育に対するデータサイエンス活用に関するご講演でしたが、非常に興味深く有意義で充実した内容の講演でした。ありがとうございました。

Q9 その他、今回のシンポジウムについて、ご意見、ご感想や今後取り扱ってほしいテーマ等ございましたらご自由にご記入ください。(自由記述)

*自由記述のため、一部の回答のみ掲載します。

- ・ 専門用語の理解が進み、更に実践された先生方のお話から具体的なイメージを把握する事ができました。ありがとうございました。
- ・ 富山県大のように短大や高専を含めた各教育機関において共通化しているデータサイエンス教育の取り組みに関する情報交換の機会を設けていただきたい。
- ・ 有益な情報を得ることができました。ありがとうございました。

3 講演資料等の公開について

各講演の際に利用したスライドについては、富山大学都市デザイン学部HP(<https://www.sus.u-toyama.ac.jp/>)に掲載しています。また、録画映像については数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムの会員校限定サイト(<http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/>)にて公開しています。

以上